

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会

Injury Alert (傷害速報)

No. 37 オートバイによる頭部外傷

事例	年齢：6歳4か月 性別：男 体重：19kg 身長：120cm	
傷害の種類	頭部打撲	
原因対象物	小児用オフロード専用バイク	
臨床診断名	1. 頭蓋骨多発骨折（左前額部一眼窩外側，右前額部一眼窩上壁，蝶形骨） 2. 右眼瞼周囲皮下血腫 3. 急性硬膜外血腫 4. 気脳症	
直接医療費	971,970 円	
発生状況	発生場所	自宅の庭
	周囲の人・状況	父が50ccの小児用オフロード専用バイクを本児のために購入し，自宅の庭で，初めて乗車する機会であった．ヘルメットは装着していなかった．
	発生年月日・時刻	2012年10月23日 午後6時00分頃
	発生時の詳しい様子と経緯	患児がバイクに乗ってエンジンをかけた際，父は目を離していた．その間にバイクが発進し，バイクの前輪とブロック塀が衝突した．その反動で頭から前方に飛び出し，前頭部をブロック塀に強打した．右眼瞼部腫脹と眼窩部を取り巻くような皮下出血を来とし，引き続き，嘔気，嘔吐を認めた．頭蓋内出血と眼窩底骨折を疑われ，当院に搬送となった．
治療経過と予後	受診時，意識障害はないものの，左前額部一眼窩外側，右前額部一眼窩上壁，蝶形骨の多発骨折を認め，頭蓋内出血の増大が予測され，嚴重な経過観察が必要であったため入院とした．頭蓋骨骨折による気脳症があり，続発性感染症も危惧され，CTRXの静注を行った．重度の疼痛があったため強力な鎮痛を行い，安静臥床にて経過を観察した．幸いにも，回復期を含め，明らかな知的障害やけいれん，意識障害，性格変化や麻痺などの神経学的異常を認めなかった．受傷後17日に全身状態は改善し，退院とした．今後は注意深く，soft neurological sign等の評価も加えて，神経障害の徴候を長期にわたって観察する必要がある．	

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

- 発生状況から推測すると，新しいオートバイが来たので，6歳の子どもはすぐに乗ってみたいくなり，飛び乗ってエンジンをかけたところオートバイが発進，塀に衝突して受傷した．初めての機会には，このような状況が発生することをしておく必要がある．使用説明書には，ライダーの体重は25kgを超えないことと記載されている．体重の-2SDまでをカバーすると，12歳くらいまでは乗ることができることになる．中には，中学生でも乗る場合があると思われ，今後，このような事故が多発する可能性がある．
- 本製品の使用説明書には，車に乗る前には取扱説明書をよく読むこと，適切なトレーニングまたは教育を受けることが明記されている．この車両はオフロード専用であること，国土交通省の認定を受けていないため，一般の道路，高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となること，私道，神社の境内，公園，農道，堤防上など，いわゆる道路の形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできる場所は，一般の道路とみなされることなどが警告として明記されている．
- 2012年10月のアメリカ小児科学会（New Orleans）では，過去10年間にATV（All Terrain Vehicle: 全地形対応車）による死傷者は4倍に増加し，毎年，800人以上が死亡，13万人が救急センターを受診していると報告され，6歳以下の使用を制限する学会の勧告案が検討されている．ATVは4輪であるが，オフロード専用の車という点では本製品と同じである．
- 本製品は，どこでも誰でもすぐに購入できる製品ではないので，メーカーは製品購入者の登録を行うことができるはずである．登録者に対し，定期的に事故の発生の有無の調査を行うことが望ましい．また，本製品の購入者には講習会の受講を義務付ける必要がある．車に乗る時のヘルメット着用など，事故予防に必須である防具の必要性についても，保護者と子どもに教育する必要がある．講習会では，本事例の父親などが自分の体験談を話して危険性を訴えるのもよい．



写真 実際に事故を起こしたものと同型のオートバイ

5. 自動車の運転に関しては、教育、再教育のシステムが確立しているので、本製品についても、管轄する部署を決め、教育システムを確立する必要がある。
